

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西小倉地域小中一貫校整備	階数	地上4F
建設地	宇治市伊勢田町遊田7番地の1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	950人
地域区分	G地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2023年8月31日
敷地面積	23,784㎡	作成者	類設計室
建築面積	5,543㎡	確認日	2023年8月31日
延床面積	16,138㎡	確認者	類設計室



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

46 (kg-CO₂/年・㎡)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア=3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア=3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 計画地周辺と調和するデザインとした。 中庭を設け、自然通風や自然光の取り入れを図った。 躯体や主要給排水管は耐用年数が高い材料を使用し、建物の長寿命化を考慮した。 	特になし。
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 校舎棟は全周が「窓」や「開口」を設け、グレア対策を行った。 化学汚染物質の使用量を減らすべく、使用建築材料は全て規制対象外のものを使用した。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 深い庇やルーバーなど、室内環境に配慮した建物形状とし、自然環境を意識できるようなサイン計画を行っている。 精密機器の設置位置や防災無線計画など非常時に備えた。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> 建物外皮の熱負荷を抑制する外皮構成としている。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 仕上げ材を躯体と容易に分別可能なLGSを採用し、再利用できるユニット部材として移動間仕切りを採用している。
	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理に考慮して散水栓を配置し、生徒が使用できる菜園を設置している。 宇治景観ガイドラインに基づいた計画としている。
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 屋外照明などの周辺地域への漏れ対策を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される